

(資料1)

四国森林管理局管内の木材価格等の推移  
(最近の動向)

令和6年6月24日  
四国森林管理局

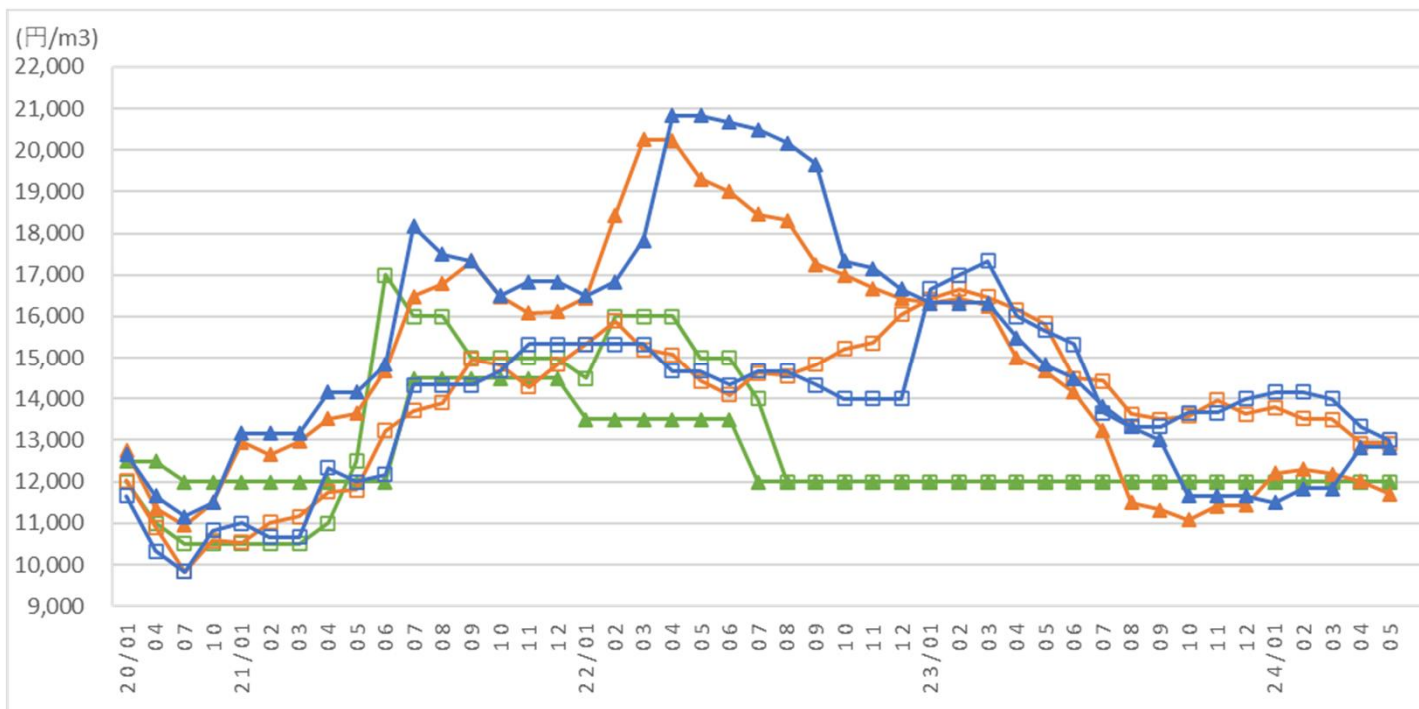
## 目次

I	管内における原木市場・共販所の状況	
1	丸太価格の推移	1
2	丸太取扱量の推移	5
II	管内における製材等の状況	
1	製材用素材の入荷量及び在庫量の推移	7
2	製材品の出荷量及び在庫量の推移	8
3	製材品価格の推移	9
III	全国の丸太価格の動向	10
IV	住宅着工戸数	
1	四国における木造住宅着工戸数の推移	12
2	全国の住宅着工戸数の推移	13

# I 管内における原木市場・共販所の状況

## 1-(1) 丸太価格の推移 (スギ、径14cm~16cm 長3m材・4m材)

- 愛媛県、高知県では、令和5年4月以降3m材、4m材ともに下落が続いた。秋口には4m材に下げ止まり感がみられたが、3m材は更に下落した。令和6年に入って3m材も底値を脱した感があったが、直近では3m材、4m材ともに小幅な値下げとなった。
- 徳島県は、令和4年7月以降引き合いが弱く、横這いで推移している。
- 令和6年5月のスギ丸太価格は、前年同月比80%から100%で推移。



○ 5月のスギ丸太価格

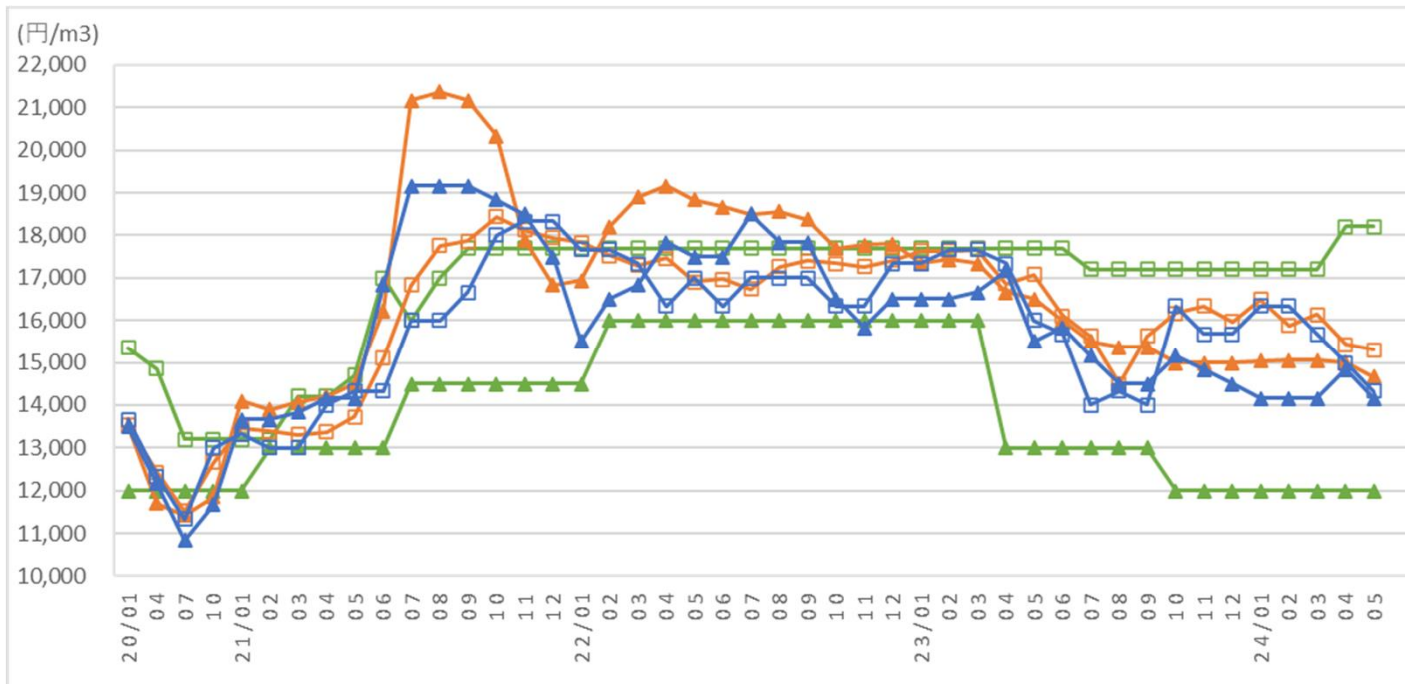
(円/m<sup>3</sup>)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	▲ 3m材	12,000	12,000	100%
	□ 4m材	12,000	12,000	100%
愛媛県	▲ 3m材	11,717	14,668	80%
	□ 4m材	12,933	15,833	82%
高知県	▲ 3m材	12,833	14,833	87%
	□ 4m材	13,000	15,667	83%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格  
資料：四国森林管理局調べ

## 1-(2)丸太価格の推移 (スギ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 令和5年は、4月頃から引き合いが弱まり軟調相場となったものの、4m材は秋口から概ね安定。3m材は不安定な相場が続いた。
- 令和6年に入っても、大きな変動はないものの、直近では3m材、4m材ともに小幅な値下げ傾向がみられる。
- 令和6年5月のスギ丸太価格は、前年同月比89%から103%で推移。



○ 5月のスギ丸太価格

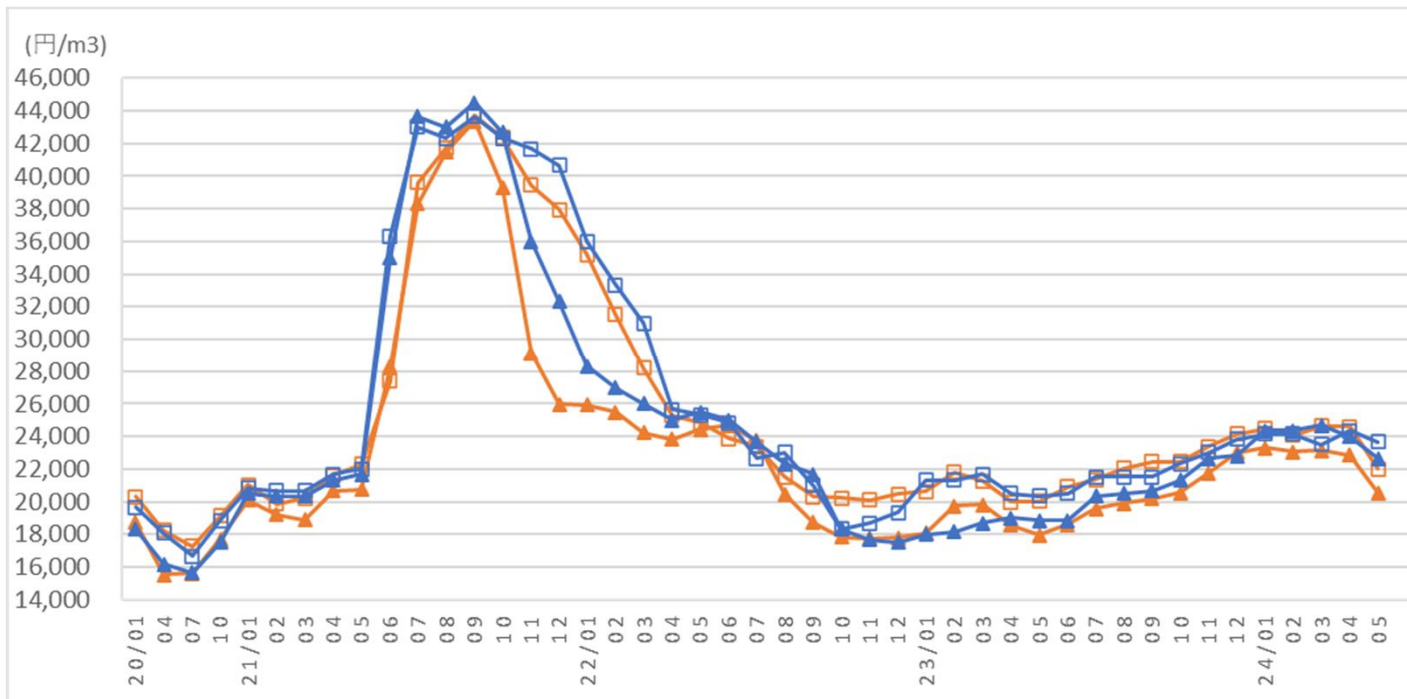
(円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	▲ 3m材	12,000	13,000	92%
	□ 4m材	18,200	17,700	103%
愛媛県	▲ 3m材	14,667	16,500	89%
	□ 4m材	15,300	17,083	90%
高知県	▲ 3m材	14,167	15,500	91%
	□ 4m材	14,333	16,000	90%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格  
資料：四国森林管理局調べ

## 1-(3)丸太価格の推移 (ヒノキ、径14cm~16cm 長3m材・4m材)

- 令和5年は小幅ながら、やや上げ基調の相場となった。
- 令和6年に入っても、概ね安定していたが、直近では3m材、4m材ともに下落基調がみられる。
- 令和6年5月のヒノキ丸太価格は、前年同月比110%から120%で推移。



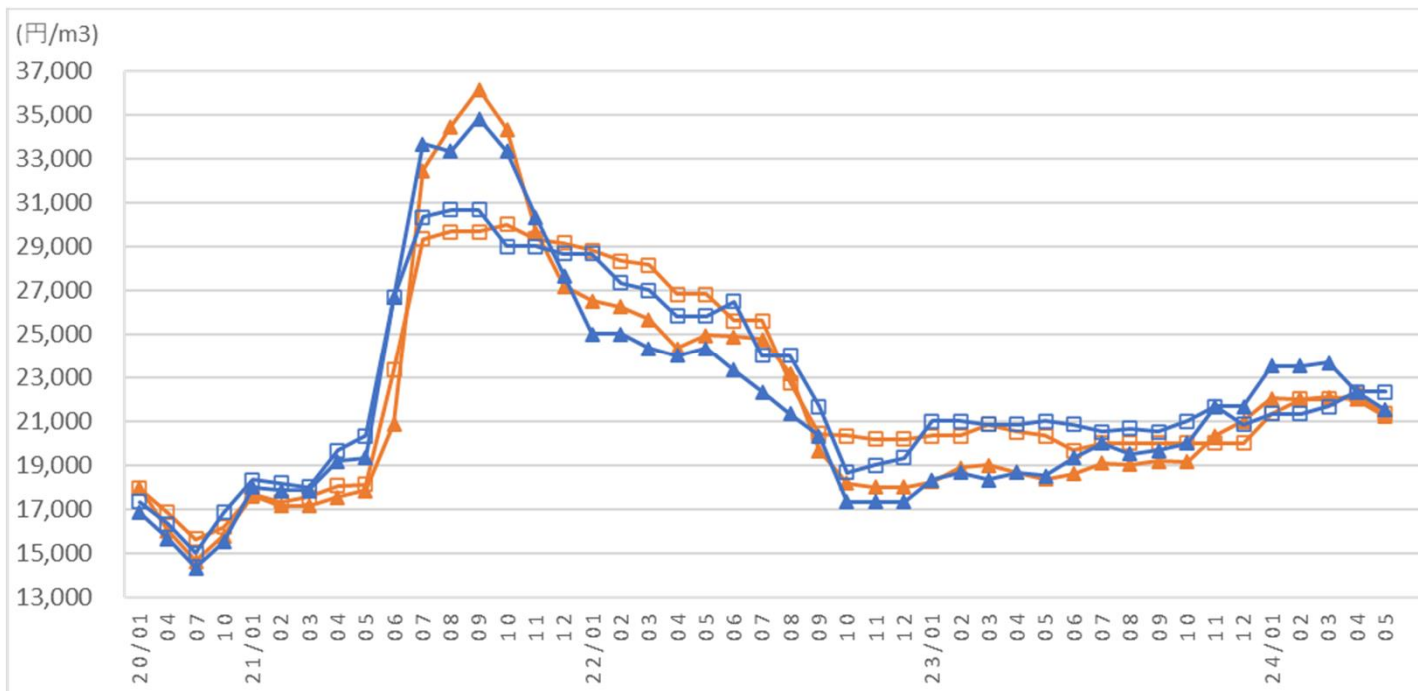
### ○ 5月のヒノキ丸太価格 (円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
愛媛県	▲ 3m材	20,550	17,953	114%
	□ 4m材	22,000	20,020	110%
高知県	▲ 3m材	22,667	18,833	120%
	□ 4m材	23,667	20,333	116%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格  
資料：四国森林管理局調べ

## 1-(4)丸太価格の推移 (ヒノキ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 令和5年は概ね安定した相場が続き、10月以降は品薄感からやや上げ基調の相場となった。
- 令和6年に入っても概ね安定した状態が続いていたが、直近では3m材、4m材ともに下落傾向がみられる。
- 令和6年5月のヒノキ丸太価格は、前年同月比105%から116%で推移。



### ○ 5月のヒノキ丸太価格

(円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
愛媛県	▲ 3m材	21,200	18,867	112%
	□ 4m材	21,333	20,333	105%
高知県	▲ 3m材	21,500	18,500	116%
	□ 4m材	22,333	21,000	106%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格

資料：四国森林管理局調べ

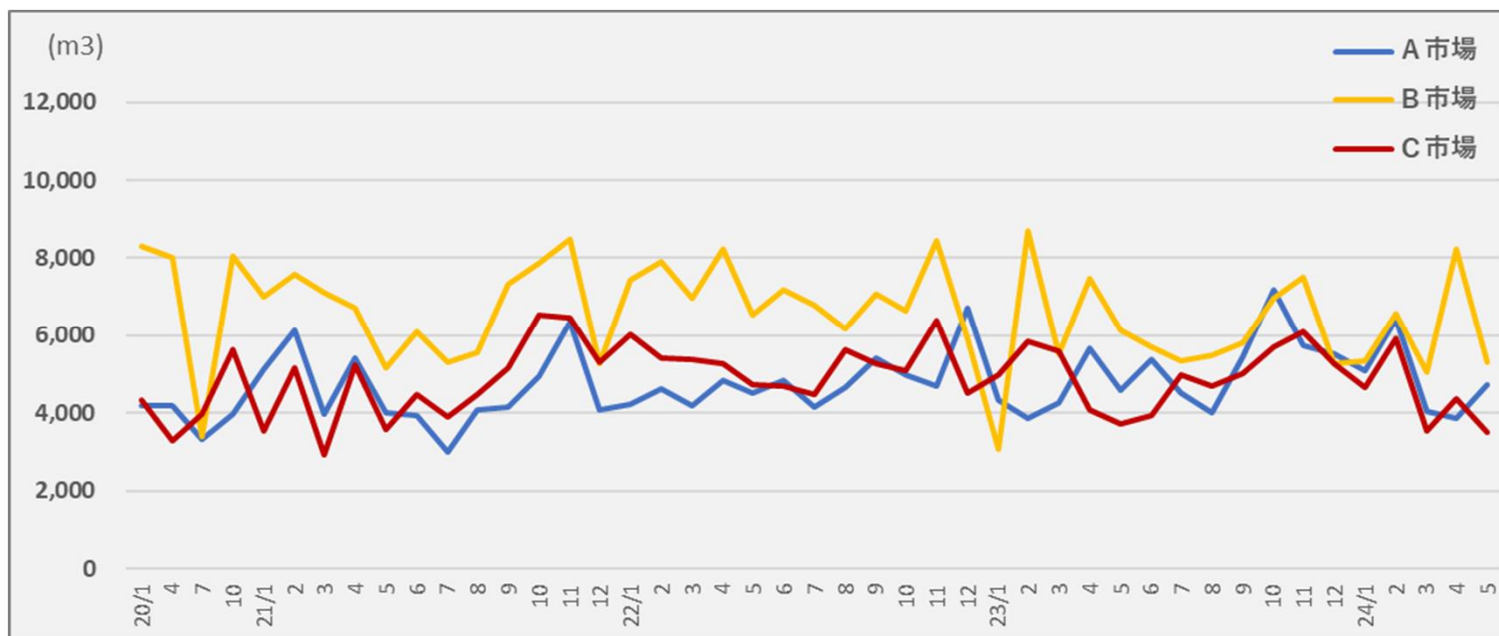
# 管内における原木市場・共販所の状況

## 2-(1) 丸太取扱量の推移（愛媛県）

- 愛媛県内の主な原木市場・共販所における3月から5月の丸太取扱量は、減少傾向にある。
- 直近3か月（3～5月）で見ると、前年同時期と比べ91%で減少。

直近3か月（3～5月）の入荷量

	2024年	2023年	前年同期比
A市場	12,674	14,507	87%
B市場	18,607	19,148	97%
C市場	11,424	13,373	85%
計	42,705	47,028	91%



### （市場関係者のコメント）

・直近の状況では、スギ・ヒノキともに入荷は虫害等の影響もあり減少傾向にある。

・ヒノキは直近で製品市況、荷動きが悪くなっている。スギは先行き不透明感を増す。

・スギ・ヒノキとも値下がり傾向にあり、特にヒノキ柱・中目材は著しく下落する可能性がある。

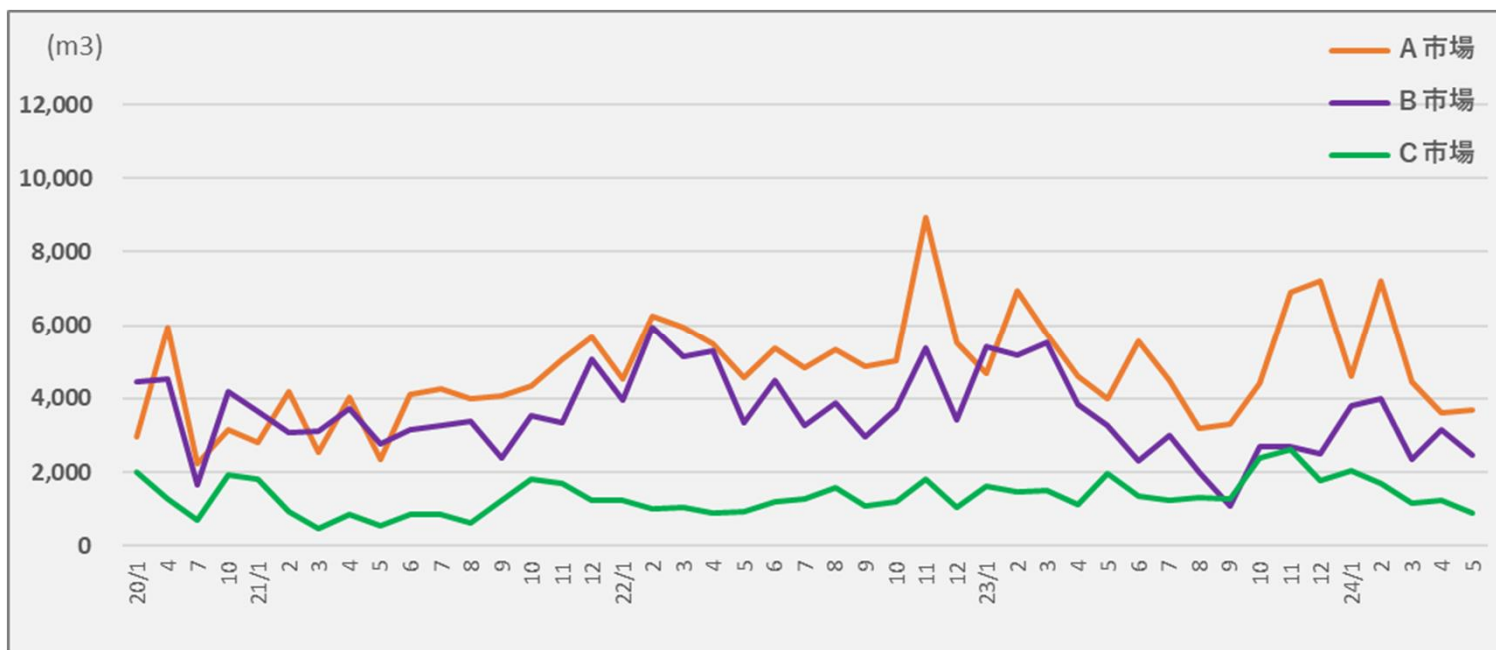
・物価高騰による住宅着工戸数が減少する中、市況見通しは大変厳しい状況が予想される。

## 2-(2) 丸太取扱量の推移（高知県）

- 高知県内の主な原木市場・共販所における丸太取扱量は、市場によりバラツキがみられるものの、3月以降は減少傾向にある。
- 直近3か月（3～5月）で見ると、前年同時期と比べ73%と減少。

直近3か月（3～5月）の入荷量

	2024年	2023年	前年同期比
A市場	11,750	14,340	82%
B市場	7,950	12,624	63%
C市場	3,275	4,584	71%
計	22,975	31,548	73%



### （市場関係者のコメント）

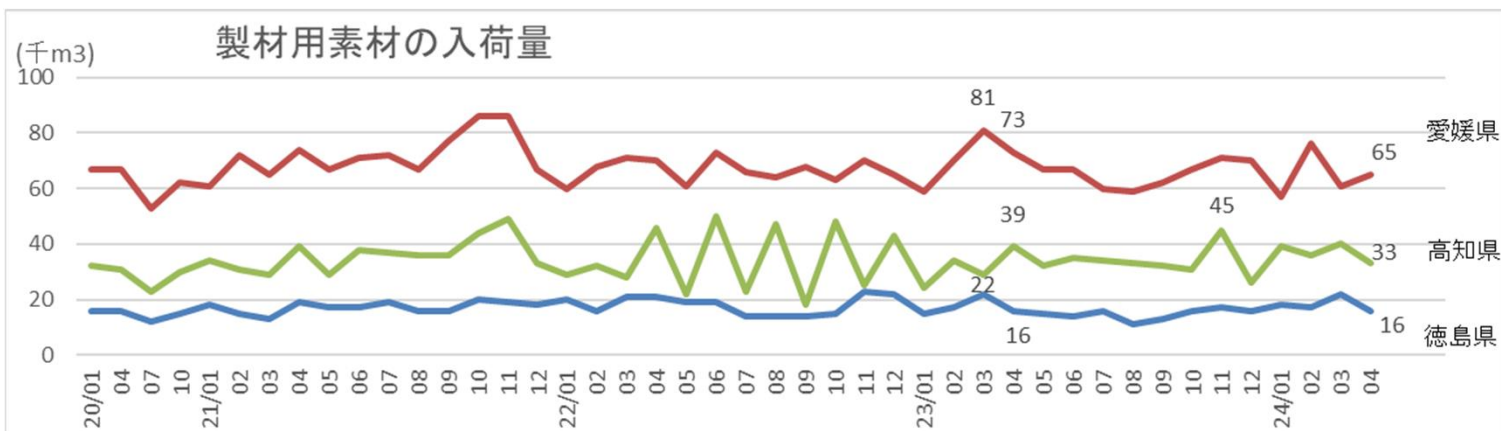
- ・直近の入荷量は、減少傾向。
- ・スギは引き合いが弱く値下がり傾向。ヒノキは品薄感があるが、製品の販売動向も悪くなり値下がり傾向。
- ・材の引き取りは良好。
- ・スギ・ヒノキともに製品動向も悪く値下がりは続く見通し。季節的要因もあるが、それ以上に製品の先行き不透明感が強い。



## II 管内における製材等の状況

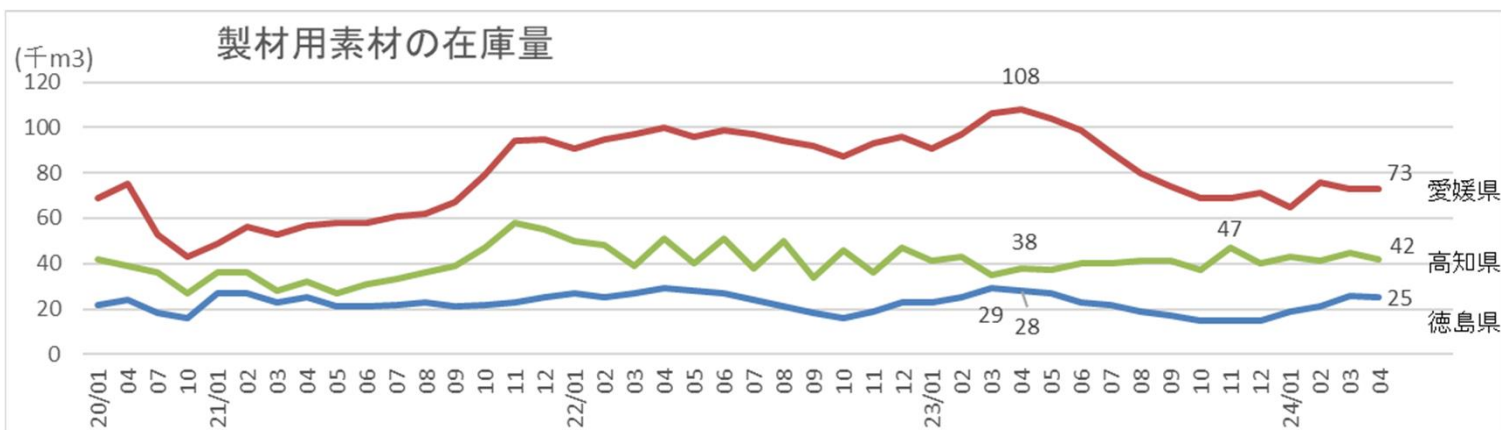
### 1. 製材用素材の入荷量及び在庫量の推移（令和2年～令和6年）

- 四国の1～4月の製材用素材の入荷量は、480千m<sup>3</sup>（前年比100%）、徳島県は概ね前年並み。愛媛県は減少。高知県は増加となった。
- 同期間の製材用素材の月平均在庫量は、46千m<sup>3</sup>（前年比84%）、徳島県、愛媛県は減少。高知県は増加となった。



1～4月製材用素材入荷量 (千m<sup>3</sup>)

	2024年	2023年	前年比
徳島	73	70	104%
愛媛	259	283	92%
高知	148	126	117%
四国計	480	479	100%

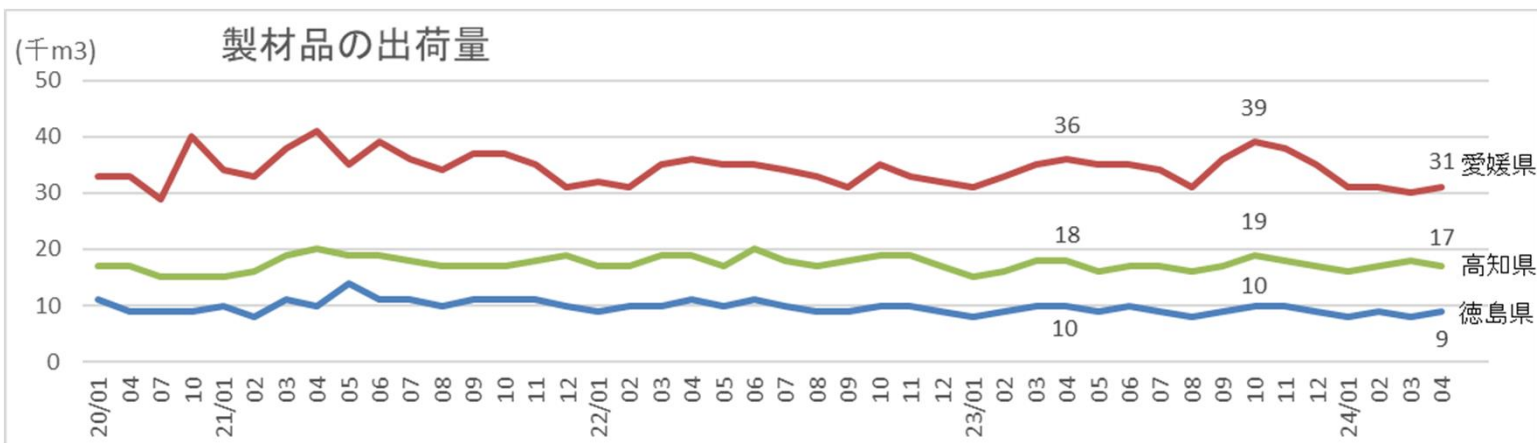


1～4月製材用素材在庫量(月平均) (千m<sup>3</sup>)

	2024年	2023年	前年比
徳島	23	26	88%
愛媛	72	101	71%
高知	43	39	110%
四国計	46	55	84%

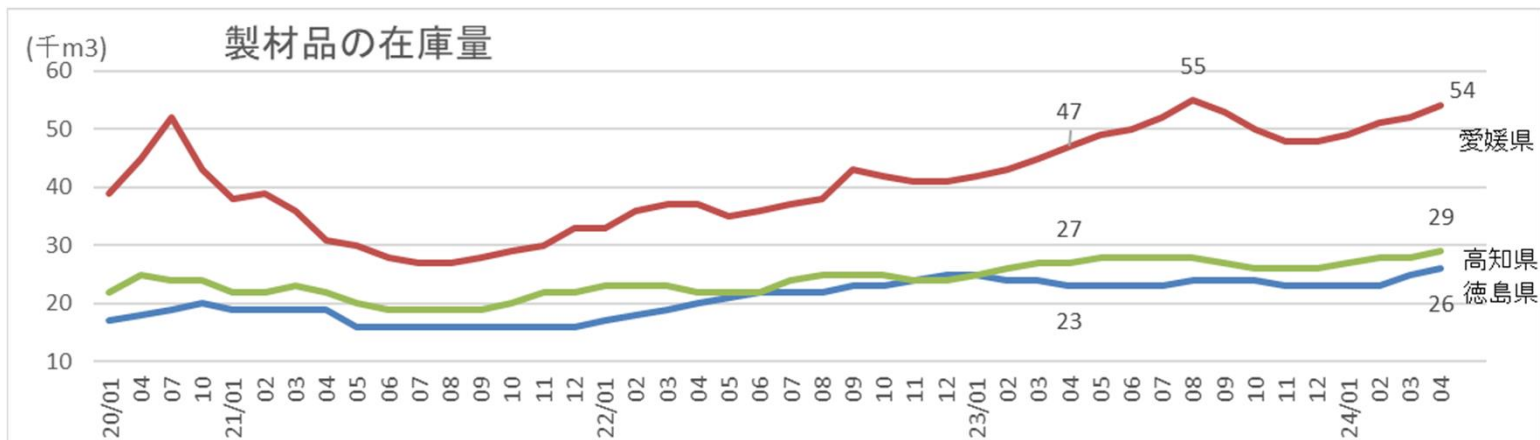
## 2. 製材品の出荷量及び在庫量の推移（令和2年～令和6年）

- 四国の1～4月の製材品出荷量は、225千m<sup>3</sup>（前年比94%）、徳島県、愛媛県は減少。高知県は前年並みとなった。
- 同期間の製材品の月平均在庫量は、35千m<sup>3</sup>（前年比113%）、徳島県は前年並み。愛媛県、高知県は増加となった。
- 令和6年に入ってから、3県ともに増加傾向にある。



（千m<sup>3</sup>）

	2024年	2023年	前年比
徳島	34	37	92%
愛媛	123	135	91%
高知	68	67	101%
四国計	225	239	94%

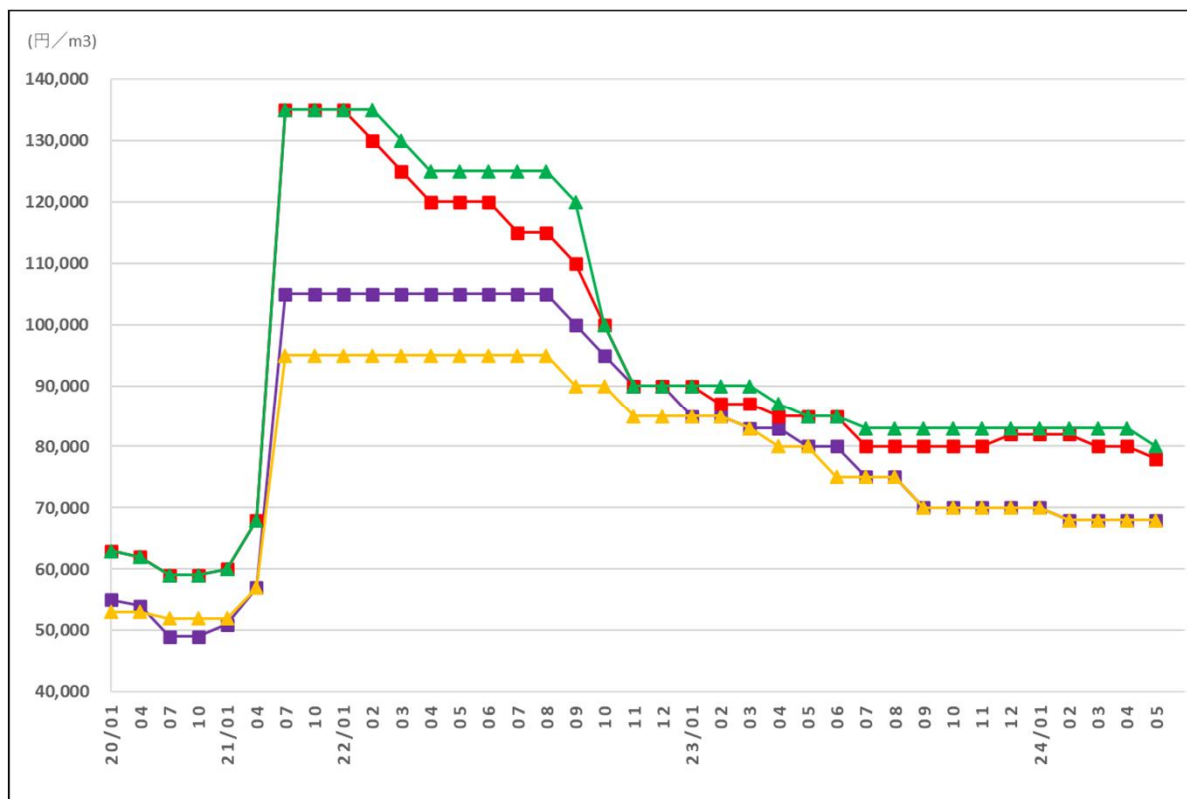


（千m<sup>3</sup>）

	2024年	2023年	前年比
徳島	24	24	100%
愛媛	52	44	118%
高知	28	26	108%
四国計	35	31	113%

### 3. 製材品価格の推移

- 令和5年は買い方の動きは悪く、価格は総じてジリ安傾向が続いた。
- 令和6年に入ってもスギ・ヒノキの製材品すべての品目において、前年同月比85%から94%で推移。



国産材製品の相場（愛媛県）令和6年5月

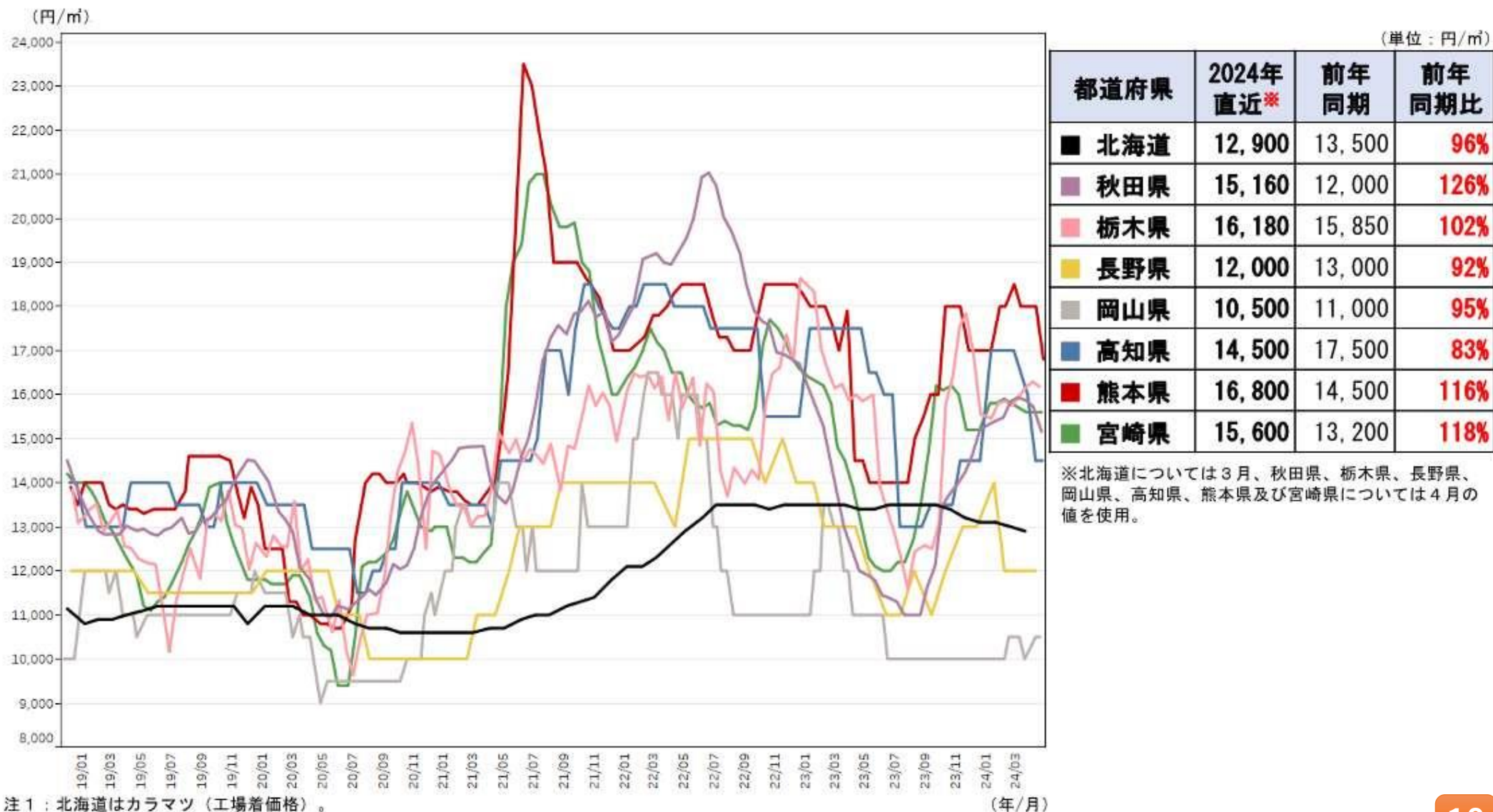
(円/m<sup>3</sup>)

品目	当月	前年同月	前年同月比
■ スギ柱 3 m × 105 mm 角KD特等	68,000	80,000	85%
▲ スギ間柱 3 m × 105 × 30 mm 角KD特等	68,000	80,000	85%
■ ヒノキ柱 3 m × 105 mm 角KD特等	78,000	85,000	92%
▲ ヒノキ土台 4 m × 105 mm 角KD特等	80,000	85,000	94%

# Ⅲ 全国の丸太価格の動向

## ア スギ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

・ 全国の原木市場・共販所において、直近のスギ原木価格は、**10,500円～16,800円/m<sup>3</sup>**となっている。



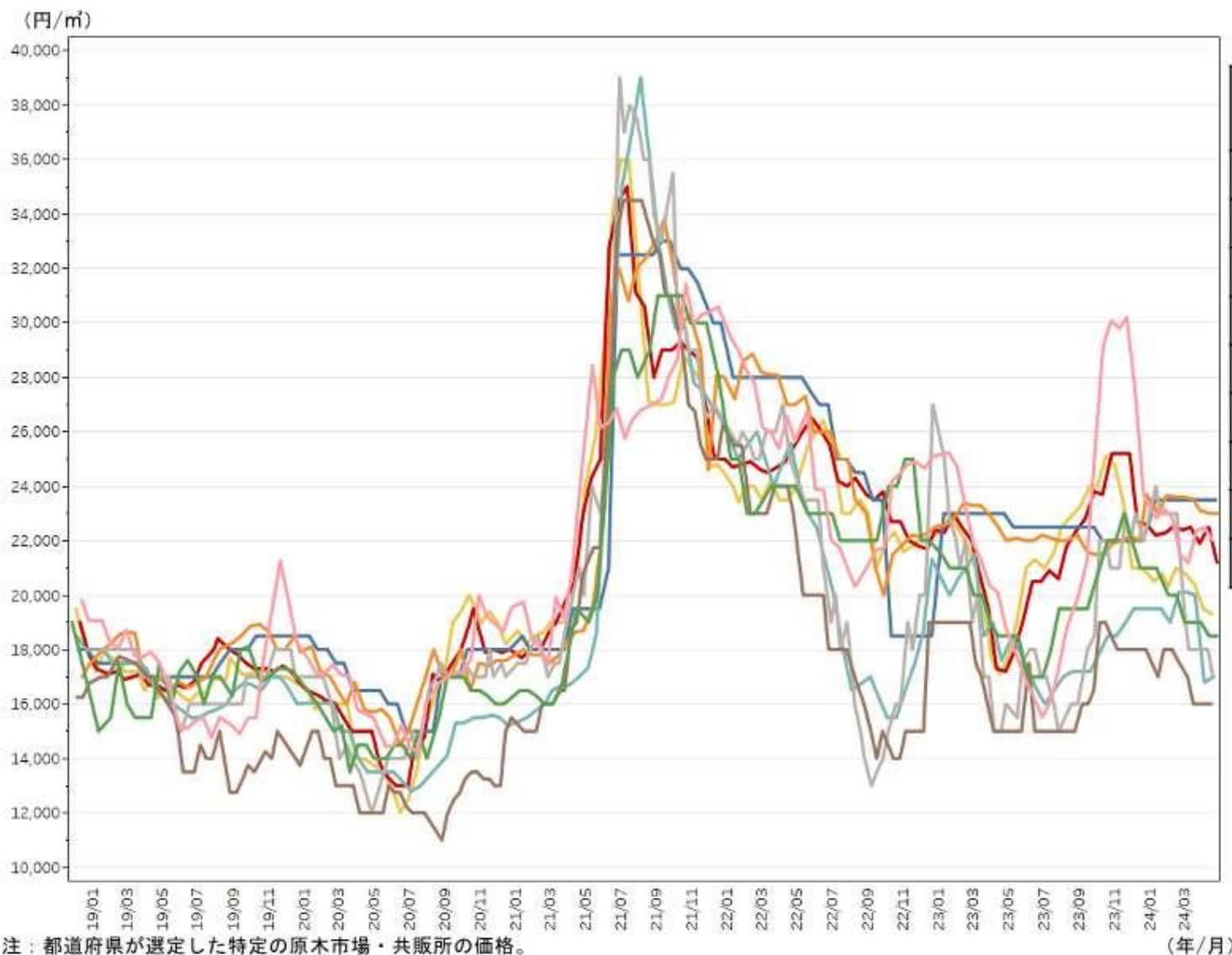
注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。

注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

## イ ヒノキ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

・ 全国の原木市場・共販所において、直近のヒノキ原木価格は、**16,000円～23,500円/m<sup>3</sup>**となっている。



注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。  
資料：林野庁木材産業課調べ

(単位：円/m<sup>3</sup>)

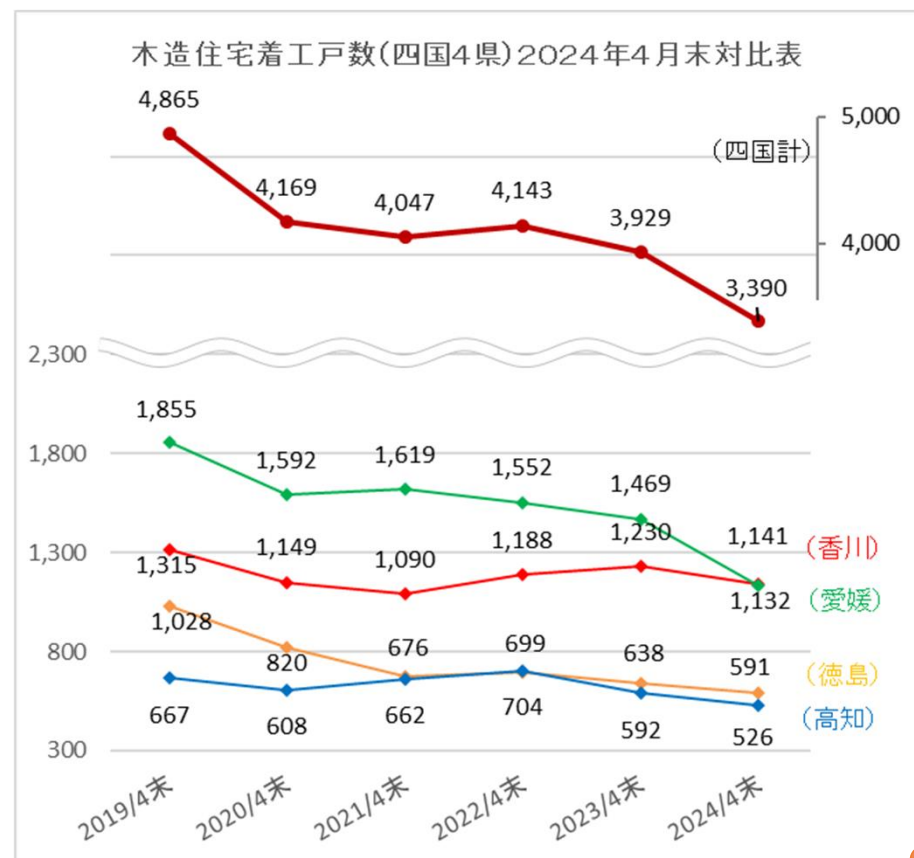
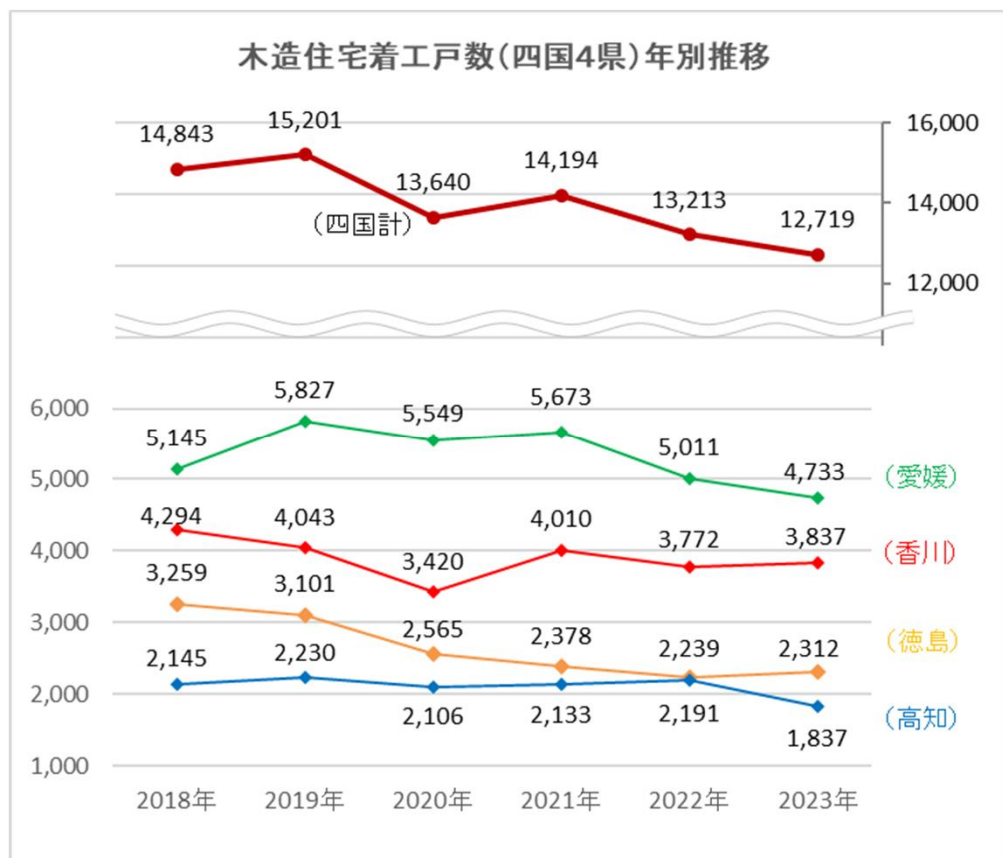
都道府県	2024年直近*	前年同期	前年同期比
栃木県	22,010	18,800	117%
静岡県	18,500	18,500	100%
兵庫県	16,000	15,000	107%
岡山県	17,000	15,000	113%
広島県	17,000	17,600	97%
愛媛県	23,000	22,000	105%
高知県	23,500	23,000	102%
熊本県	21,200	17,200	123%
大分県	19,300	17,100	113%

※各県4月の値を使用。

# IV 住宅着工戸数

## 1 四国における木造住宅着工戸数の推移

- 四国における2023年1月～12月の木造住宅着工戸数は、12,719戸（前年比96.3%）となり、昨年に続き過去10年間で最も低い水準となった。
- 直近の県別をみると、徳島県（前年比92.6%）、香川県（前年比92.8%）、愛媛県（前年比77.1%）、高知県（前年比88.9%）と4県すべてで前年を下回った。

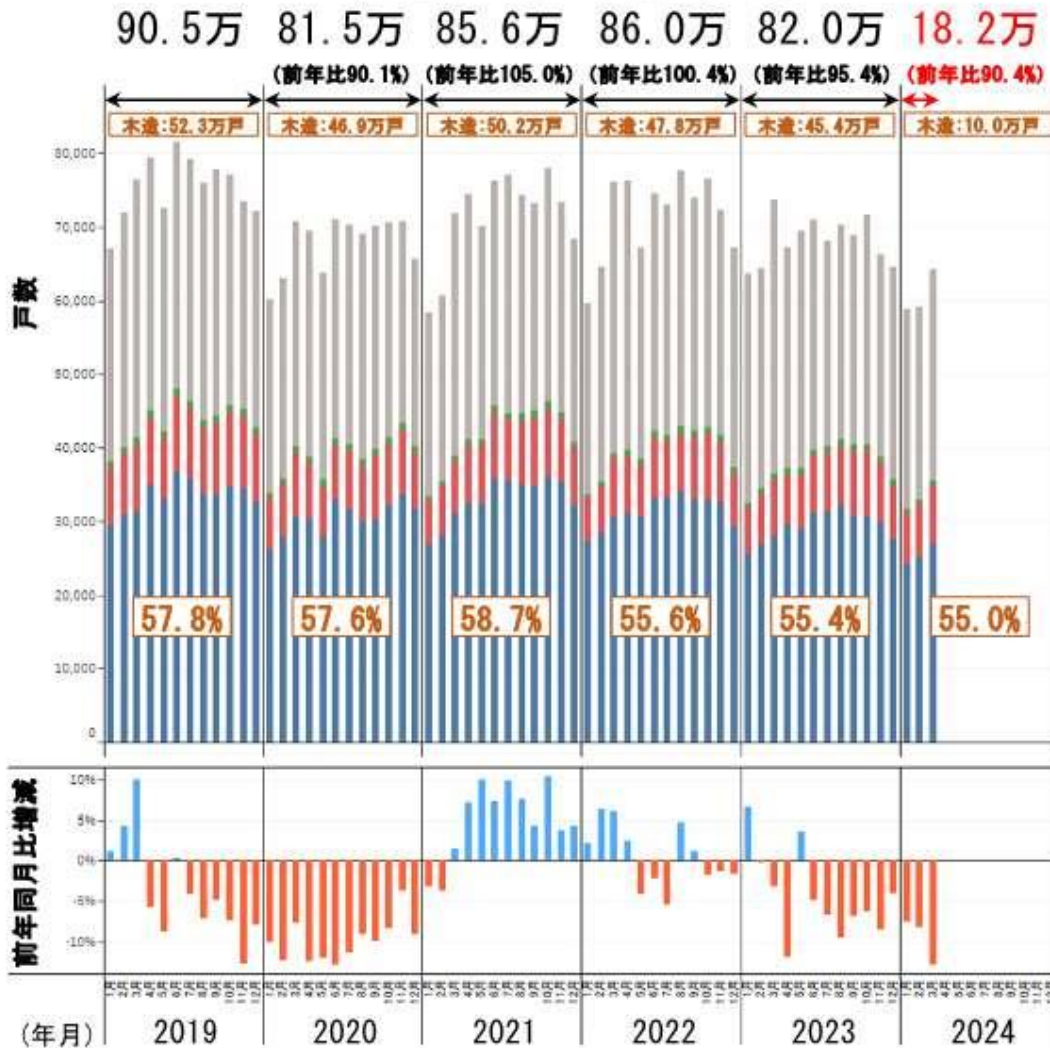


資料：国土交通省「住宅着工統計」

## 2 全国の住宅着工戸数の推移（2019年1月～2024年3月）

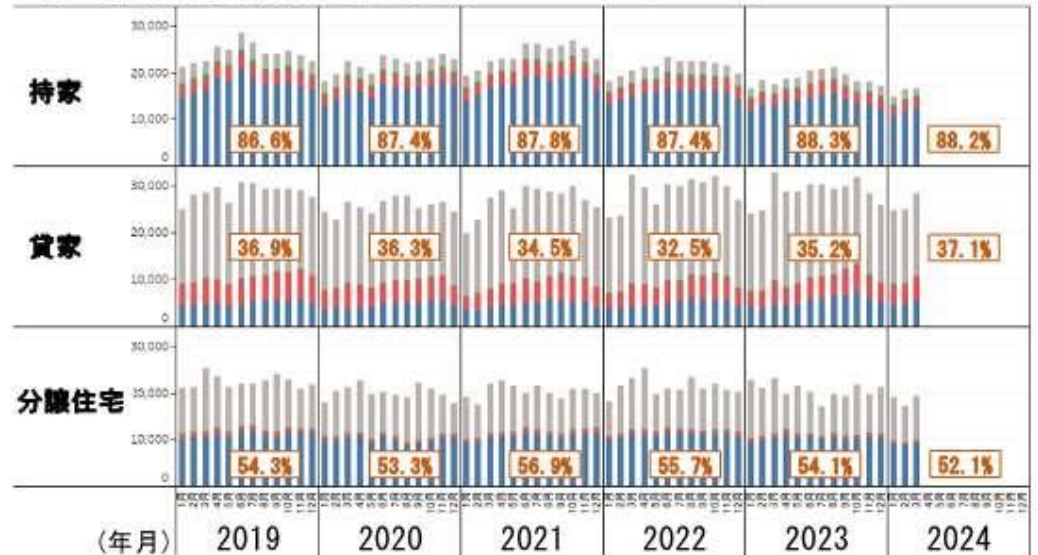
- 2023年の新設住宅着工戸数は、82.0万戸（前年比95.4%）、このうち木造住宅は45.4万戸（同95.1%）となり、2022年の水準を下回った。
- 2024年3月の新設住宅着工戸数は、18.2万戸（前年同期比90.4%）、このうち木造住宅は10.0万戸（同96.9%）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2024年 3月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	182,276	201,723	90.4%	200,424	90.9%
■非木造	81,987	98,193	83.5%	92,078	89.0%
木造	100,289	103,530	96.9%	108,346	92.6%
■木造プレハブ	2,341	2,344	99.9%	2,043	114.6%
■2×4	21,447	20,592	104.2%	19,969	107.4%
■在来軸組	76,501	80,594	94.9%	86,334	88.6%
□木造率	55.0%	51.3%		54.1%	

(参考) 利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）



# 「定常範囲を逸脱する動き」について

(資料2)

## 分析結果

### (ア) 木材価格の前月比における逸脱の有無

(調査月 令和6年1月～令和6年4月)

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

### (イ) 木材価格の前月比における下落(上昇)の継続(5ヶ月以上)

(調査月 令和6年1月～令和6年4月)

【スギ中丸太】 ・ 4月現在、5ヶ月以上連続した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 4月現在、5ヶ月以上連続した動きはなし。

### (ウ) 木材価格の前年度同月比における逸脱の有無

(調査月 令和6年1月～令和6年4月)

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

### (エ) 木材価格の2ヶ年平均価格比における逸脱の有無

(調査月 令和6年1月～令和6年4月)

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

### (オ) 製材用素材の在庫率における逸脱の有無

(調査月 令和6年1月～令和6年4月)

【徳島県・愛媛県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【愛媛県・高知県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会運営要領（平成25年7月30日付け25四資第19号）の2の（ア）から（オ）に係る確認

#### 〔判断基準・指標〕

- 「定常範囲を逸脱する動き」については、国有林材の供給調整機能検討事業調査報告書（平成24年9月28日(財)日本木材総合情報センター）に示された統計的な判断基準、指標を参考とした
- 使用データ：「国内企業物価指数」（日本銀行統計）  
「木材価格」「製材統計」（農林水産省統計）



## ○ 丸太価格、在庫率の変動

### 1 スギ中丸太価格（徳島県・愛媛県）

	逸脱上限値 5.82%				逸脱下限値 -5.96%				逸脱上限値 21.89%				逸脱下限値 -22.21%				逸脱上限値 17.72%				逸脱下限値 -18.54%			
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)											
	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月				
スギ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	-1.30%	-0.34%	1.04%	0.90%	-6	-7	1	2	-15.18%	-15.61%	-15.75%	-13.04%	-17.58%	-16.87%	-15.94%	-14.85%								

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

### 2 ヒノキ中丸太価格（愛媛県・高知県）

	逸脱上限値 9.08%				逸脱下限値 -9.27%				逸脱上限値 40.03%				逸脱下限値 -41.55%				逸脱上限値 29.62%				逸脱下限値 -33.64%			
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)											
	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月				
ヒノキ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	2.26%	1.56%	1.82%	-0.30%	3	4	5	-1	20.56%	21.63%	18.35%	14.76%	2.87%	5.42%	6.08%	4.06%								

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

### 3 製材用素材の在庫量

	素材の在庫率				逸脱上限値		逸脱下限値	
	1月	2月	3月	4月	1.88	0.81	1.58	0.89
スギ製材用素材(徳島・愛媛)	1.00	1.16	1.19	1.20				
ヒノキ製材用素材(愛媛・高知)	1.06	1.14	1.15	1.13				

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 在庫率のデータは農林水産省の「製材統計」を使用し、算出したものである。

## 樹木採取権制度による令和5年度の木材取引実績について

樹木採取権制度による令和5年度の素材生産量は以下のとおりでしたので、報告します。

樹木採取区名	令和5年度素材生産量
四国1 四万十川上流樹木採取区	442m <sup>3</sup>

### (参考)

四国1 四万十川上流樹木採取区については、令和4年3月31日に樹木採取権が設定され、令和4年度から樹木採取権者による事業を開始しました。

この事業については、林野庁長官通知により、樹木採取区からの木材取引の実績を国有林材供給調整検討委員会に毎年度報告し、地域の木材需給等への影響について、当委員会において確認していただくこととなっています。

(資料5)

# 木材需給動向を踏まえた国有林材の供給調整について

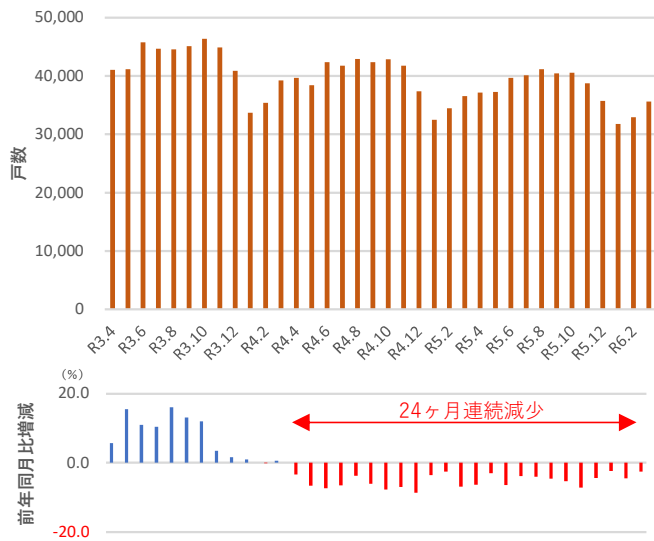
令和6年6月24日

林野庁

## 直近の木材需給動向

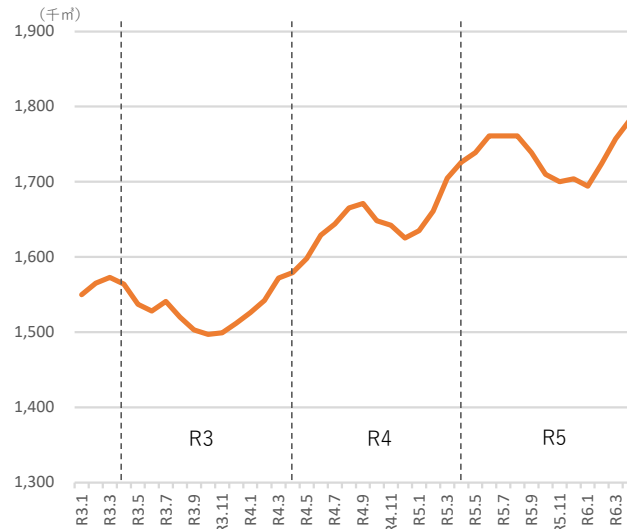
- R6.3の着工統計によると、新設住宅着工戸数の減少傾向が継続しており、前年同月比は87.2%で10ヵ月連続減少、木造住宅では同97.5%で24ヶ月連続減少。合板工場での原木の受入制限が長引いているほか、製材品についても在庫量は増加傾向にあり、価格は弱含みで推移。
- 木材需給の先行き不透明感が増す中、今後の国有林材の供給に当たっては、地域の木材需給動向はもちろん、花粉発生源対策など民有林施策への影響にも十分注意を払いながら、必要に応じて柔軟に対応する必要。

新設木造住宅着工戸数の推移



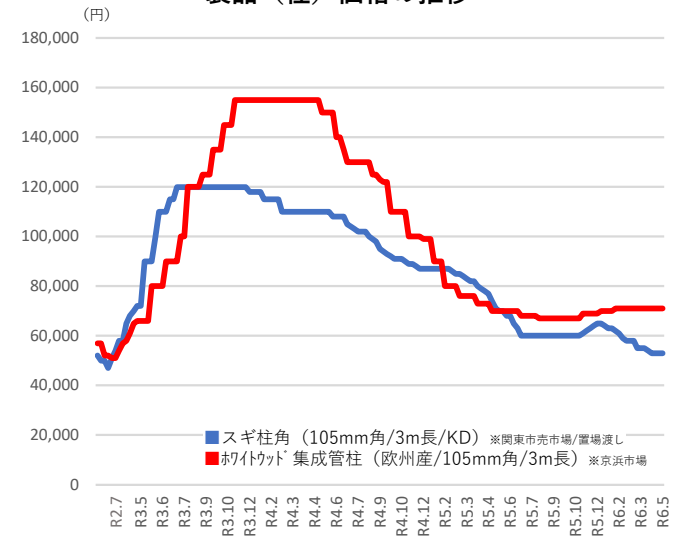
資料：国土交通省「住宅着工統計」

製材品在庫量の推移



資料：林野庁「木材統計調査」

製品（柱）価格の推移



資料：木材建材ウイクリー、日刊木材新聞

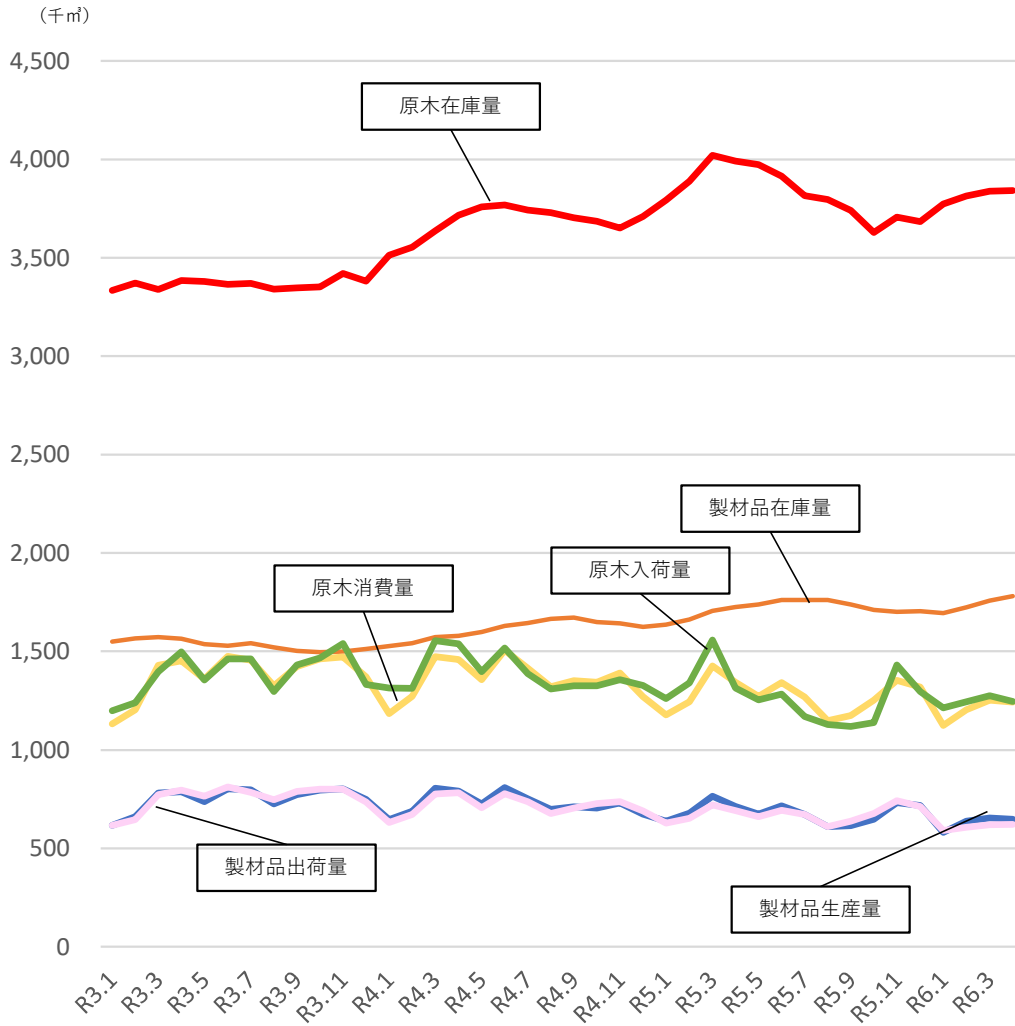
## 今回の対応と期待される効果

対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 需給状況が更に悪化する可能性も想定し、地域の労務の流動化等に資する予防的措置（立木販売の搬出期間の延長※）の実施を検討</li> </ul> <p>※ 本年度内に搬出期間が終了する物件について、買受事業者の希望に応じて1年間を限度に無償で延長</p>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 搬出期間を延長することで、立木販売物件からの原木の生産を地域の需要に沿ったものとし、地域の木材需給の不安定化を回避・抑制</li> </ul>

# 原木在庫量・製材品在庫量・合板在庫量の推移

(別紙)

## 原木在庫量・製材品在庫量の推移



## 原木在庫量・合板在庫量の推移

